

令和6年度地域医療支援病院業務報告（任意的に求められる取り組み）

取組み事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他
医療圏	No.	地域医療支援病院名（承認年月日）	病床数（床） 評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要 ICT（情報通信技術）を用いた病診連携等	地域調整部門 遠隔医療部門の概要	③地域連携を促進するための取り組み 地域連携クリティカルパスを普及させたための取り組み 地域連携クリティカルパスに基づいて治療した患者のフォローアップ医療に対してし内容の説明を行う普及に努めている。 当院開催の研修会等でも説明し普及に努める。
		1 赤島医師会病院 (H15.3.13)	一般150 日本医療機能評価機構による機能別別院評価項目3rdQ; Ver.2.0取得（令和3年6月）	地域の集約システム等を利用して赤島市内の医療機関や行政機関（赤島市役所、赤島消防本部、赤島保健所）へ向けて研修会の案内や診療、検査等に関する情報を周知している。毎月更新による各告示、赤島市研修会の詳細情報広く情報を市内の医療機関へ発信している。	27年度とびうめネット加入	福岡市医師会等で策定した「脳血管障害地域連携バス」がんと地域連携クリティカルパス」をともに、他の医療機関とも連携して均てんを図っている。
		2 独立行政法人国立病院機構九州総合センター (H16.2.27)	一般650感染 2種精50 （公財）日本医療機能評価機構による機能別別院評価項目3rdQ; Ver.3.0取得（2024年11月1日）	ホームページ、診療情報、広報誌及びWebを活用した地域医療支援病院運営会議・地域連携セミナー、研修会等を開催し、診療内容、医療サービス、診療実績、診療情報分析レポート及び症例評価情報（国立病院機構九州総合センター作成）を発信している。また、広報誌「KMCニュース」を年4回発行し、自院の取組とニュース、連携医療機関の紹介及び診療実績を掲載し幅広く配布している。	現在の所、ICTを用いた病診連携は行っていない。 とびうめネットについては、平成31年4月より導入している。	福岡市医師会が主催する地域医療連携ワークショップに出席し、連携医療機関と連携して連携クリティカルパスを普及させたための取り組み
		3 公立学校共済組合九州中央病院 (H18.4.1)	一般330 公益財団法人 日本医療機能評価機構 一般病院2（3rdQ; ver.2.0） 認定日 令和5年5月12日	病院ホームページで、地域医療支援病院としての取り組み、利用方法などの情報発信、診療実績を公表している。広報誌には各診療科および連携病院の紹介、診療実績などを掲載し発信している。また、訪問活動担当が地域の医療機関を訪問し、診療・医療機器情報や臨床状況などの情報提供を行っている。併せて地域の医療機関のニーズに即して情報収集を行い診療科部長と同行訪問を行い、診療に関する情報交換を積極的に実施している。コロナ禍において、ウェブ（ZOOM）を活用し、地域連携Webセミナーを月に3回開催し、医師やメディカルスタッフなどが、地域の医療機関の医師や看護師、薬剤師、介護施設のケアマネやスタッフ、教員などと当院の診療科の特徴や取り組みを情報発信している。また、3カ月ごとに、地域住民や患者向けの講座を配信している。	平成31年2月にとびうめネットへ登録し、診療に活かせるよう情報の活用を拡げている。 CT・MRIの共同利用については、オンライン予約を開始した。オンライン予約は、予約の約半分の電話連絡が必須となるため、開業者の先方との負担軽減に繋がっている。	福岡市医師会方式脳卒中バス 大脳血管障害骨折地域連携バス 福岡県がんと地域連携バス がんがんと地域連携クリティカルパス
		4 福岡市立こども病院 (H19.9.1)	一般239 （公財）日本医療機能評価機構 病院機能評価項目3rdQ; Ver.2.0 令和3年5月	年報を関係以來毎年発行し、病院概要や患者統計、経営状況をはじめ、各診療部門、医療技術専門職部門の業務内容及び研究、研修内容等を掲載し、医療機関や行政機関等に配布している。 また、地域医療連携推進システムを年4回発行しており、トピックスや各診療科の紹介、研修の案内等を掲載し、各連携医療機関に配布しており、ホームページでも公開している。 病院のホームページ上、SNSを活用し情報の発信を行っている。	平成29年12月より福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」へ参加。	福岡市医師会方式脳卒中バス 大脳血管障害骨折地域連携バス 福岡県がんと地域連携バス がんがんと地域連携クリティカルパス
		5 国家公務員共済組合連合会の市立病院 (H21.4.1)	一般468 （公財）日本医療機能評価機構による機能別別院評価項目3rdQ; Ver.3.0取得（令和6年9月25日～26日）	当院ホームページにおいて、セミナー・研修会開催情報を発信の市立病院地域医療連携の会 地域連携推進会議（WEB講演会）を4回の広報誌（はまかぜ）の発行 地域連携だより」の発行 診療案内の発行 がん診療の一環としての発行 非診療患者の下に設置されている看護師さんに研修会の開催 インスタグラムの活用	とびうめネットに加入	福岡市医師会及び連携を取っている医療機関とともに、「大脳血管障害骨折地域連携バス」を運用 福岡県がんと地域連携バス（がんがんと、肝臓がん、膵臓がん）
		福岡県済生会福岡総合病院 (H22.4.1)	一般373 審査機関 ビューローベリタスジャパン株式会社 規格ISO 9001：2015、JIS Q9001：2015 認定機関 J A B 認証範囲 医療サービス、 (2023年3月15日)	地域の医療従事者向けの研修会や住民向けの講演会開催の情報をホームページ上に掲載して多くの関係者に参加してもらえるよう努めている。患者向け情報誌「はまかぜ」に「はまかぜ」をSNS(LINE、Instagram)でも発信し発信に関する情報提供も努めている。また無料、低価格の検査や開業の先方から検査予約、CT・MRIの依頼をしやすくする手続を含む多岐にわたる患者へのサービスを行っている。手続を含む多岐にわたる詳細な案内をWebに掲載している。You tube、SNSでの一般市民に対する病への啓蒙活動も行っている。	H28年より福岡県医師会診療情報ネットワーク「とびうめネット」へ加入している。 登録医に対しては、CT、MRI等の検査予約、いくつかの診療科の診療予約をWeb上で行っている。県内各診療科のある小島島とのオンライン診療を行っている。また、オンラインでのカンファレンスを毎月1回実施している。また、ICT等の情報共有を行っている。	福岡市医師会及び連携を取っている医療機関とともに、「大脳血管障害骨折地域連携バス」を運用 福岡県がんと地域連携バス（がんがんと、肝臓がん、膵臓がん）
		福岡市市民病院 (H23.4.1)	一般200感染症4 （公財）日本医療機能評価機構による機能別別院評価項目3rdQ; Ver.2.0取得（令和2年5月8日）	年報がリリースされるに、委員検討FQHを年に4回発行し、開放型診療や近隣の医療機関へ送付している。ホームページにおいては、地域の医療機関、医療従事者向けに患者紹介の方法、院内研修会各種研修会の案内、開放型病棟の案内、地域連携バスの案内などを周知している。	福岡県医師会診療情報ネットワークととびうめネットに、緊密な連携医療機関として登録している。	福岡市医師会及び関係医療機関とともに「脳血管障害地域連携バス」について、急性期病院として計画書を作成し、地域医療機関と連携して運用している。
		福岡赤十字病院 (H23.4.1)	一般509感染 2 ・（公財）日本医療機能評価機構による機能別別院評価項目3rdQ; Ver.2.0取得（令和3年2月5日） ・（公財）日本医療機能評価機構による機能別別院評価項目3rdQ; Ver.3.0取得（令和3年2月5日） ・専門機能：救急医療・災害時の医療 ・外国人患者受入れ医療機関認定制度（MIP）: Ver.3.0（令和7年2月26日）	・ホームページにおいて、共同利用開放設備・機器について案内 ・広報誌「Cross Heart」を年4回発行し、最新の情報を発信 ・年報及び病院誌「Dr. Cross Heart」を年1回発行し、診療内容、実績等を発信 ・病診・病診連携連絡協議会を対面式で開催し、新任医師、診療内容の紹介と意見交換を行った。 ・開業7年4年連続に地域医療連携Webセミナーを行い、診療科からの最新のトピックスや症例報告等を配信した。	福岡県医師会診療情報ネットワーク（とびうめネット）に参加し、救急医療情報・必要スケジュールを随時更新し、救急医療における情報共有に努めている。 ・福岡県医師会診療情報ネットワーク（とびうめネット）に参加し、救急医療の連携に努めている。	福岡市医師会及び関係医療機関とともに「脳血管障害地域連携バス」について、急性期病院として計画書を作成し、地域医療機関と連携して運用している。
		社会医療法人財団白十字赤十字病院 (H24.7.27)	一般282 （公財）日本医療機能評価機構による機能別別院評価項目3rdQ; Ver.3.0取得（令和3年3月8日） （公財）日本診療放射線技師会による医療従事者研修評価項目3rdQ; Ver.3.0取得（令和5年10月1日更新）	ホームページにて情報発信している。 年報を作成し、ホームページで公開している。 広報誌「4周年」を登録医、近隣医療機関へ約300部郵送している。 毎月月初めに登録医へ外来担当医表、各種お知らせを郵送している。 年当初に医師の専任導入し紹介インフレットを作成し、登録医、近隣医療機関へ約300部郵送している。 地域交流サロン「いしまるしよ」で、地域住民に向けて健康促進に関する情報発信を行っている。	当院が運営するインターネットを利用して、医師会診療情報ネットワーク「クロスネット」とは患者さんの同意のもと、当院のカルテの一部「カルテ」を連携し、検査結果、処方内容、注射内容、MRI・CT等の画像）を契約医療機関と閲覧できるシステム。クロスネットによりMRI、CTの検査予約が可能。 （登録医療機関28施設、契約患者数217名 平成28年3月1日 とびうめネット加入	福岡市医師会が主催する地域医療連携ワークショップに出席し、連携医療機関と連携して連携クリティカルパスを普及させたための取り組み

取組事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	③地域連携を促進するための取り組み	④その他		
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	<p>評価を受けた機関名等</p> <p>情報発信の方法・内容等の概要</p> <p>ICT(情報通信技術)を用いた病診連携等</p>	<p>退院調整部門の概要</p> <p>地域連携部門との連携にも策定された地域連携クリティカルパスの種類・内容</p>	<p>地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み</p> <p>患者様入院後、早期にカルテより情報収集を行い地域連携バス対象者を把握、バス対象者であることを主治医・研修看護師・リハビリスタッフへ報告。また近隣の回復期病院に対し、連携協力医療機関への参加を促進している。</p> <p>年に3回開催される地域連携ワークショップへの参加 医師による地域連携バス対象者の選定と、バスの説明 医師連携室によるデータ管理 福岡県がん診療連携協議会等への参加 近隣医療機関へ訪問し普及活動を行っている</p>		
	10	福岡記念病院 (H26.12.5)	一般239	<p>(公財)日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目3rd/Ver.3.0取得(2024年2月9日)</p> <p>・ホームページにて患者様向けに診療・検査のご案内、病診連携等の情報発信を行っている。 ・広報誌「face to face」を年4回発行し、自院の取組や新入医師の紹介、連携医療機関の紹介等を掲載し、情報提供を推進している。 ・年報を年1回発行し、病院概要、統計資料、部門別活動報告等を掲載し、地域連携の推進に活用している。</p>	<p>とびうめネットに参加し、かかりつけ医にて作成された患者基本情報を共有することで、迅速で適正な救急医療に努めている。</p> <p>地域医療連携室に退院調整部門を設け、専任の看護師1名、専任の医師1名、社会福祉士5名、事務職4名を配置。入院時より地域困難な薬品を有する者を抽出し、退院支援計画の立案及び実行を行っている。</p>	<p>福岡市医師会との連携のもと地域連携クリティカルパス(大腸骨頭部骨折・脳卒中)を策定し、当院を計画管理病院として地域連携設計書「地域連携バス」を作成。また近隣の回復期病院に対し、連携協力医療機関への参加を促進している。</p> <p>福岡市医師会方式脳血管障害地域連携バス 福岡市医師会方式大腸骨頭部骨折地域連携バス がん地域連携バス(胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝臓がん、前立腺がん)</p>	<p>●地域の看護学校実習生に係る受入れ状況 ・受入看護学校名 福岡女学院看護大学、福岡看護大学 ・受入人数:2,246名 ・受入期間:100名(令和6年4月~令和7年3月)</p>	
	11	福岡和自病院 (H26.12.5)	一般369	<p>2004年より5年ごとに(公財)日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審し、2024年5月に一般病院23rd/Ver.3.0に受審し認定を受ける。また、福岡市東区医師会東区医師会との相互機能評価を受けている。</p> <p>院内・外に地域住民を対象とした健康教室や健康体操のポスターを掲示するほか、急患医療機関や院外の地域医療従事者に向けて診療予定や研修機会に関する情報を月に1度発送。合同カンファレンスと地域医療研究会などの勉強会をオンラインも併用し積極的に開催している。本病院ホームページにおいても予定を掲載している。また、新たな設備や治療法等の紹介は、関係する医師及び技師による医療機関への訪問活動を行っている。</p>	<p>とびうめネットに参加し、診療所・近隣病院と必要情報を共有し地域医療に努めている。また、創地医療(長崎県対馬・島根県)と協力し、かかりつけ医との連携強化を図るようあじさいネットに参加し、迅速な連携を図っている。</p> <p>退院支援専従で看護師1名を配置、退院調整看護師6名、MSW1名を専任で配置している。</p>	<p>福岡市医師会方式脳血管障害地域連携バス 福岡市医師会方式大腸骨頭部骨折地域連携バス がん地域連携バス(胃がん、大腸がん、肺がん、乳がん、肝臓がん、前立腺がん)</p>	<p>●地域の看護学校実習生に係る受入れ状況 ・受入看護学校名 福岡女学院看護大学、福岡看護大学 ・受入人数:406名</p>	
	12	独立行政法人国立病院機構福岡東医療センター (H19.4.18)	一般499病床 38感染症12	<p>(公財)日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目3rd/Ver.2.0取得(令和5年3月10日)</p> <p>(1)冊子などの配布(粕屋医療圏での情報発信) 病院広報誌「ちどり」を定期発行し、近隣の医療機関等に配布することで病院情報を発信している。 (2)講演(粕屋医療圏における診療に関する情報発信)等を地域住民、行政機関、医療機関等に紹介している。 講演場所:院内研修センター、古賀市の健康福祉まつり、古賀市立図書館等。 (3)当院のホームページにおいて病院機能、診療内容、研修の開催状況についての情報発信を積極的に行っている。 (4)当院とかかりつけ医との情報共有を行うため、とびうめネット(高齢者緊急連絡システム)に参画していることを、当院のホームページで情報発信している。</p>	<p>(1)かかりつけ医による紹介受診予約、検査診断(検査受診、MRI)の申込(カルナ)を用いている。 (2)病院ホームページで病院機能や病院の概要について広く発信している。</p>	<p>①地域連携診療計画(大腸骨頭部骨折・脳卒中)による連携 大腸骨頭部骨折と脳卒中に対し診療計画(クリティカルパス)を用いて連携病院と退院後の診療連携を図っている。 ・大腸骨頭部骨折連携病院 香椎正リハビリテーション病院、北九州古賀病院、宗像水光会病院、荒巻整形外科、亀山整形外科、原三信病院、北九州中央病院、東郷外科病院、古賀中央病院、脳卒中連携病院 香椎正リハビリテーション病院、北九州古賀病院、宗像水光会病院、原三信病院、福間みらい病院、竹竹病院、池田内科クリニック、やの循環器内科クリニック、福田脳神経外科医院、北九州宗像中央病院 ②がん診療連携計画(5大がん等)による連携 がん診療連携拠点病院で策定した診療計画(5大がん連携バス)、「私のカルテ」を用いて連携病院と退院後の診療連携を行っている。 ③肺結核地域連携バスによる連携 発生地域を管轄する各保健所と連携し入院後の円滑な転院を図る診療計画(バス)を用いて行政(保健所)と退院後の診療経過を観察する。</p>	<p>●地域の看護学校実習生に係る受入れ状況 ・受入看護学校名 福岡看護高等専修学校 福岡看護高等専修学校 ・受入人数:76名</p>	
粕屋 (2病院)								
	13	福岡青洲会病院 (R5.4.1)	一般213	<p>(公財)日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目3rd/Ver.3.0取得</p> <p>・情報発信の方法:病院HP、かすや医療・介護情報ネットががすくん、オアシス、とびうめネット ・内容等の概要:病院概要、外来案内、入院案内、診療案内等</p>	<p>・R7年4月からケアブックを用いた情報発信・共有を開始</p>	<p>退院後も様々なニーズや課題をもつ患者・家族に対して安定した療養生活を送ってもらうように、地域医療連携室に退院調整部門を設けており、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、必要に応じて、往診や訪問看護等の在宅サービスを提供している。</p>	<p>令和6年5月と12月に近隣の医療機関の職員を集め地域連携クリティカルパスの運用について意見交換を実施</p>	
	14	宗像医師会病院 (H12.3.31)	一般164	<p>(公財)日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目3rd/Ver.3.0取得(令和5年10月6日)</p> <p>本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を知照するほか、看護学校実習生の受け入れ状況を掲載している。また、会員向けに「ご利用ハンドブック」を毎年発行している。</p>	<p>退院後も様々なニーズや課題をもつ患者・家族に対して安定した療養生活を送ってもらうように、地域医療連携室に退院調整部門を設けており、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、必要に応じて、往診や訪問看護等の在宅サービスを調整している。</p>	<p>がん診療連携拠点病院等を中心に策定された地域連携診療計画に基づいたがん診療連携に参加し、宗像医師会との連携のもとに、腫瘍内科・緩和ケア病棟を設置し、がんに関しても地域で完了する体制を構築している。</p>	<p>147名 宗像看護専門学校、日本赤十字九州国際看護大学、福岡看護高等専修学校</p>	
宗像 (1病院)								
	15	福岡大学筑紫病院 (H19.4.18)	一般308感染症2	<p>方法 病院ホームページ、広報誌(ちくしニュース)、年報、健康講座の開催、YouTubeによる配信</p> <p>内容 病院情報、共同利用に関すること、看護実習受入れ、地域連携クリティカルパスに関すること等</p>	<p>入退院支援クラウドサービス(CAREBOOK)の利用 とびうめネット(福岡県医師会診療情報ネットワーク)へ参加 オンライン予約システム(病診連携)の利用(R7年度より運用) AI電話の活用(R7年度より運用)</p>	<p>筑紫医師会の企画により、基幹病院3施設と地域の連携医療機関の参加による「脳血管障害」とびうめネット(福岡県医師会)との連携強化を図っている。令和6年度は会場とWEB参加によるハイブリッド方式開催であった。 福岡県医師会および関係医療機関とともに「がん地域医療連携クリティカルパス」を策定し、福岡大学病院と連携してがん相談支援センターの充実とバス運用の推進に取り組んだ。 地域がん診療病院の指定は2025年3月31日で取り消しとなり、2025年度のがん地域連携バスの運用は終了した。</p>	<p>近隣の医療機関を訪問し、連携医療機関の登録を推進している。</p> <p>連携医療機関との定期的な情報共有や意見交換を行い、地域連携クリティカルパスの周知と効果的な運用について検討を行っている。</p>	<p>・受入看護学校名 福岡大学医学部看護学科、福岡看護大学看護学部、福岡国際医療福祉大学看護学部、純真大学保健医療学部看護学科、福岡女学院看護大学、あさくら看護学校 筑紫看護高等専修学校 ・受入人数、受入期間 404名(令和6年4月~令和7年3月)</p>
筑紫 (3病院)								
	16	医療法人健栄会 福岡看護学院 (H20.4.1)	一般600感染症2	<p>●(公財)日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目3rd/Ver.3.0受審(令和5年6月13日~6月14日) ●JCI(Joint Commission International)(平成30年12月認証 令和3年12月再認証 令和6年12月再認証)</p> <p>当院のホームページをはじめ、近隣医療施設(約10施設)に毎月研修会等の情報を発信。また、四半期一度、診療科に特化した院外広報誌「TEAM」を作成し近隣医療施設へ発送している。 看護学校実習生の積極的な受入れ、地域連携クリティカルパスの導入を実施。</p>	<p>福岡市医師会が進めている「とびうめネット」に加入し、救急受け入れをはじめ登録施設としても取り組んでいる。</p>	<p>福岡市医師会、筑紫医師会が主導している「大腸骨頭部骨折・脳卒中」を策定し近隣医療機関と連携を築きつついる。</p>	<p>定期的な金会に参加し、地域連携バスの検証、協議をおこなっている。</p>	
	17	福岡県済生会二日市病院 (H24.7.27)	一般260	<p>・情報発信の方法、内容等の概要 ・毎月、県医師会への診療情報を発信している ・ホームページ内院外関係者に向けての研修の開催に関する情報を発信している。 ・県医師会・患者向けの広報誌をそれぞれ年3回発行し情報発信を他共同利用に関する情報を発信している。</p>	<p>とびうめネットに登録している(登録日:2015年3月)</p> <p>患者支援センターに退院調整部門を設置、ソーシャルワーカーや看護師が必要に応じて往診や訪問看護等の在宅サービスを構築している。</p>	<p>大腸骨頭部骨折地域連携バス 脳卒中地域連携バス</p>	<p>3月に度、協力病院との勉強会を行っている(Web研修)</p>	
	18	朝倉医師会病院 (H12.3.31)	一般224	<p>(公財)日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目3rd/Ver.3.0取得(令和5年10月6日)</p> <p>ホームページに、院外に向けて各種教室(勉強会)、研修会、特設健診、人間関係の案内や、「地域講演会」などへの講師派遣案内を掲載している。</p>	<p>医師会会員は、電子カルテシステムを利活用した地域医療連携システムにより、入院時より看護部にて退院支援に取り組んでいる。また、地域医療連携室においても、後方支援(退院調整)部門として、様々なニーズや、課題を持つ患者・家族に対し、転院または施設、在宅サービスに向けた調整を行っている。</p>	<p>がんの地域医療連携クリティカルパス(私のカルテ)を運用している。</p>	<p>948名(あさくら看護学校)75名(緑生館)270名(昭和学園)</p>	

取組事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	退院調整部門	③地域連携を促進するための取り組み	④その他			
医療圏	No.	地域医療支援病院名(承認年月日)	病床数(床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	I C T (情報通信技術)を用いた病診連携等	退院調整部門の概要	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
久留米 (4病院)	19	聖マリア病院 (H20.4.1)	一般931 療養100 精神90 感染症6	1) 日本医療機能評価機構 認証規格：一般病院2機能 機能別別添評価項目3rd0: Ver.3.0 最終審査日：2023年8月31日 2) ISO9001 認証規格：2015 (ISO9001:2015) 最終審査日：2024年12月6日 3) ISO15189 認証規格：2022 (ISO15189:2022) 最終審査日：2024年10月11日	1. 聖マリア病院地域医療連携広報誌「耳納の朝」の発行・郵送 2. 聖マリア病院ホームページでわかりやすい案内等提示し随時更新 3. 高度医療機器、手術室等について医療案内をホームページに掲載し、連携登録病院の先生をはじめ地域の先生方を訪問し、共同利用の促進をはかる 4. 院外関係者に向けて研修の開催に関する情報を告知	ID-Link IC電子情報他病院やクリニックネットワークから自由に取りマリア病院の医療情報を開示 ネットワークへの参加を地域の医療機関に呼びかけ、久留米地区の主要医療機関の賛同を得ることができ、平成24年8月に「ぐるめ診療情報ネットワーク協議会(アザレネット)」が設立され、つぎつぎの医療ネットワークの実現を図っている。このネットワークを利用した情報連携によって、より正確で迅速な診断と安全な治療が期待される。また、福岡県が進めている「とびうめネット」にも参加し、救命センターとして、消防、救急隊と救急隊と搬送先医療機関が連携出来るよう緊急時紹介先医療機関として体制整備を進めている。	転院支援、在宅管理状況の管理、自宅退院患者を中心とした退院支援(社会復帰) 退院援助および医療機関・施設等との転院調整など、さまざまな要望や課題を持つ患者、家族に対して、退院後も安定した暮らしを送ってもらうように、退院支援室を設け、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、医療連携における後方支援の強化を実践している。現在は、前方連携を主に担当する地域連携室と退院支援室(医療相談および後方支援全般を担当)に分かれており、お互いに協力し円滑な業務遂行を行っている。	1. がん地域連携バス 福岡県では、県の拠点病院として、九州がんセンター・九州大学病院の病院が指定されている。地域拠点病院は13施設が指定されているが、当地域では、久留米大学病院、聖マリア病院で高い水準のがん医療は、久留米大学「がん相談支援センター」の設置など体制整備を図っている。 2. 久留米大脳脊髄近位部骨折地域医療連携バス 久留米医師会とも連携を取りながら、筑後地域の回復期病院・維持施設と連携強化し、大脳脊髄近位部骨折地域医療連携バスの事務局として地域死生協会の医療を推進している。各医療機関が相互に訪問し、顔の見える連携の継続を図っており、良い効果も上げている。 3. 筑後脳卒中連携の会 地域連携バス 久留米医師会とも連携を取りながら筑後地域の回復期病院・維持施設と連携強化し、脳卒中連携バスの事務局として地域死生協会の医療を推進している。各医療機関が相互に訪問し、顔の見える連携の継続を図っており、良い効果も上げている。	がん地域連携バスについては、聖マリア病院ホームページで情報公開し、関係医療機関へ周知している。	1. 聖マリア学院大学 2年生100人 2. 聖マリア学院大学 3年生102人 3. 聖マリア学院大学 4年生107人 4. 聖マリア学院大学専攻科 助産学専攻10人 5. 久留米医師会看護専門学校(看護科) 57人 6. 筑後福祉専門学校緑生館(看護専攻科) 50人 7. 医療福祉専門学校緑生館(総合看護科) 39人 8. 医療福祉専門学校緑生館(総合看護科) 6人 9. 医療福祉専門学校緑生館(総合看護科) 27人 10. 医療福祉専門学校緑生館(総合看護科) 20人 11. 高定看護専門学校40人 12. あまくら看護学校40人 13. 精華女子高等学校(看護専攻科) 4人 14. 八女筑後看護専門学校(看護科) 27人 15. 第一薬科大学(看護学科) 66人 16. 佐賀女子高等学校(衛生看護専攻科) 4人 17. 古賀国際看護学院9人 18. 純愛看護大学10人 合計737人
	20	社会医療法人天神会 新吉原病院 (H22.4.1)	一般260 感染8	日本医療機能評価機構による機能別別添評価項目一般病院2(3rd: Ver.3.0) 2024年1月	ホームページ及び広報誌にて、診療内容及び診療実績に関する情報を発信している。 専攻の前方連携担当者を配置して更なる情報発信を行う。	ぐるめ診療情報ネットワーク協議会(アザレネット)に参加し、ID-LINKを用いて診療情報の共有を病院・診療所で行っている。また、緊急時のかかりつけの情報を共有するとしてとびうめネットを活用している。	入院時より病棟退院調整看護師が係わり早期退院に向けて、患者情報の確認を行う。 また、地域医療連携室に所属する看護師、MSWが医師及びコメディカルスタッフと連携し状況に応じた退院支援を実施している。	筑後地区脳卒中連携の会に計画管理病院として参加。	筑後地区脳卒中連携の会では、連携バス運用に関する部会を行っており、看護師、リハビリ、栄養士、ソーシャルワーカーがそれぞれの部会に参加している。	古賀国際看護学院 9,911人 久留米医師会看護専門学校看護科251人 久留米医師会看護専門学校看護科80人 高尾看護専門学校 80人 杉森高校看護科140人 佐賀女子高等学校 200人 合計 2,662人
	21	鳴田病院 (H23.4.28)	一般150	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別添評価項目3rd0: Ver2.0(一般病院2) 2019年 第3回更新認定 2019年 3rd0 Ver2.0(一般病院2)更新 リハビリテーション機能 副機能 2019年 更新 緩和ケア機能 副機能 2019年	広報誌(躍進)、開業医向けの広報誌(連携版)、病院ホームページ、SNS、院外の健康教室の開催及びチラシ配布を行う等情報発信に努めている。	PC間で診療情報の開示ができる以下2つのネットワークシステムへ参加し運用中 (1)IDリンクシステム(アザレネット) (2)久留米医療圏ネットワークシステム のとびうめネット：福岡県ネットワークシステム	地域医療ケアサポートセンターに配置しているMSW名とホームの退院支援看護師2名を中心に退院調整、支援を行っている。また、病棟看護師、リハビリセラピストなどの職種と連携の方向性を検討する退院支援カンファレンスを実施し、また在宅支援部門(訪問診療、訪問看護、ケアマネジャー)等と連携を取りながら、在宅調整もっている。	・大脳脊髄近位部・脳卒中回復期バス ・循環器脳卒中地域連携バス(当院と地域の開業医による循環器型バス)	・地域連携講演会の開催 ・コーディネートナーズの訪問による経過確認・申し送りを行っている(2/23 中休/ave) ・コーディネートナーズの啓発活動125件/4ヶ月毎(年4回)	・入人数73名(延べ557名) ・高尾看護専門学校 久留米医師会看護専門学校 精華女子高等学校 アカデミー看護専門学校 合計
	22	田主丸中央病院 (H24.7.27)	一般178 療養72 精神93	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別添評価項目3rd0: Ver3.0取得(交付日：2024年9月6日、初回認定：1999年1月25日)	1、ホームページ：病院概要 お知らせ 研修会の案内など 2、広報誌 患者向け3回/年 登録医向け4回/年	1 とびうめネット 浮羽医師会多職種連携システムの活用 2 アザレネットの活用	・退院調整部門で従事看護師1名配置し、各病棟担当の相談員(MSW、PSN)、入退院支援看護師と連携 ・入退院支援・退院調整マニュアルに沿って支援している (大脳脊髄連携バス がん連携バス 脳卒中連携バス)	久留米医師会、浮羽医師会の関係医療機関とともに以下に地域連携クリティカルパスを策定し、かかりつけ医との連携を行っている。	院内職員に対して各会議で周知、活用を促している。 院外バス策定病院の担当者と定期的に情報交換、転院時退院時に関係者へ報告	111名 あまくら看護学校 久留米医師会看護専攻科 衛生看護大学看護科 アカデミー看護専門学校
八女 筑後 (2病院)	23	公立八女総合病院 (H26.12.5)	一般300	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別添評価項目3rd0: Ver3.0取得(2024年12月6日)	公共機関や医療機関に加え、構成自治体全世帯に年3回の広報誌を発行、配布している。院外の関係者に向けて研修に関する情報等を医師会、関係医療機関、消防署向けにFAXやホームページでお知らせしている。診療実績は、全国自治体医療協議会の「医療の質の評価・公表等推進事業」に参加し、臨床指標を公開。	八女筑後医療情報ネットワーク(IDリンク)を活用し、連携医療のために必要な診療情報を共有することで、地域における継続性の高い医療の提供に努めている。とびうめネットへの参加も行っている。	患者支援センター(入退院支援課・医療連携課)を設置し、入院からの退院支援を行っている。各病棟に退院支援職員を配置し、入院早期に患者の状況を把握し退院困難な要因を有している患者を抽出している。入院前の患者情報を他職種と情報共有し、退院支援に関わる情報の活用している。退院支援が必要と判断した患者には退院調整計画書を作成し説明し必要な支援を行っている。各病棟に退院支援看護師を導入する取り組みも開始し、退院調整部門と連携の更なる連携強化を目指している。また、退院後に安定した療養生活を送ってもらうように、地域の医療機関やケアマネジャー等と連携し退院支援を行っている。オンラインでのカンファレンスにも対応している。八女筑後地区在宅医療、介護連携推進事業の委員として参加しており、地域を挙げて円滑な退院支援が行えるよう協議を行っている。	八女筑後医師会および関係医療機関とともに「がん地域連携クリティカルパス」を策定し、かかりつけ医との連携を行っている。	脳卒中連携バス、大脳脊髄近位部骨折地域連携バスの計画管理病院として取り組んでおり、年3回程度の会議を開催している。会議ではバス内容の見直しや情報交換などを行っている。がん地域連携クリティカルパスにも取り組んでおり、新たに地域連携バスを開始する医療機関には、事前に連携先医療機関へ向く運用の説明を行っている。	・入学看護学校名 八女筑後看護専門学校、城北高校、杉森高校、他5施設 ・入人数、入学期間 1,258名(うち正看護師1,024名、准看護師234名) ・令和6年4月から令和7年3月まで
	24	筑後市立病院 (H30.4.1)	一般231 感染 2	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別添評価項目3rd0: Ver2.0取得(令和5年8月12日)	・広報誌を4回/年発行しており、地域の医療機関や行政機関、コミュニティ等へ配布をしているほか、ホームページに役立つ情報等を発信している。「健康前出講座」を地域住民の健康増進のために開催している。「健康前出講座」をその開催した。また、地域住民に病気ととの予防について正しい知識を持っていただき、健康増進に役立てていただくことを目的に開催している「地域公開講座」を2025年2月に開催(ハイブリッド開催)し、そのの様子を後日YouTubeでも公開することで、多くの方々へ情報発信を行った。	ID-LINKを使用している。	退院後も様々なニーズや課題をもつ患者、家族に対して、地域連携室を設置し、退院後も安定した暮らしを送ってもらうように、退院支援室を設け、ソーシャルワーカーや看護師が協力し、医療連携における後方支援の強化を実践している。現在は、前方連携を主に担当する地域連携室と退院支援室(医療相談および後方支援全般を担当)に分かれており、お互いに協力し円滑な業務遂行を行っている。	「筑後地区大脳脊髄近位部骨折地域連携バス」を策定し、当院及び公立病院を基幹病院として、地域の回復期リハビリテーション病院4施設、維持期8施設と連携している。	当院のホームページにおいて、当該クリティカルパスの概要を説明するとともに、関係医療機関に周知している。年2回、連携施設とバス会議を行い、使用実績の報告、バスの内容や運用上の課題が解決は検討している。令和3年度からは、症例検討会を行い事例の共有・質の向上に努めている。	644名 八女筑後看護専門学校(看護科、准看護科)
有明 (1病院)	25	大牟田市立病院 (H24.7.27)	一般320	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別添評価項目一般病院2<3rd0: Ver.3.0>取得(2024年2月9日)	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて様々な情報を発信している。また、病院概要や各診療科の詳細などを記載した広報誌である「診療のご案内」を院外の医療機関へ発行している。	地域医療連携システム(愛称：ありあけネット)を導入し、同意が得られた患者さんに関り、病院の電子カルテ(診療情報)を、地域の登録医療機関との間で安全に接続されたインターネット回線を介して参照するシステムを構築しており、情報共有や診療の質向上に努めている。また、当院は福岡県医師会や大牟田医師会が取り組みをしている「とびうめネット(福岡県医師会診療情報ネットワーク)」の緊急時紹介先医療機関としての役割を担い、迅速で適切な医療を提供するためのネットワークに参加している。	地域医療連携室に退院調整部門を設けており、各病棟に退院調整看護師を配置している。看護士や医師、ソーシャルワーカー(社会福祉士)が、患者さんやご家族との相談を通して、今後の療養に対する希望を伺い、院内スタッフ、院外関係者と連携し、転院・転居調整や在宅療養などへ支援を行っている	がん地域連携バスは、大腸がん、胃がん、肺がん、乳がん、肝臓がん、前立腺がんの福岡県統一バスの利用促進を行っている。大牟田大脳脊髄近位部骨折地域バスは、当院を管理病院として4医療機関と連携している。また、脳卒中地域連携バスも、当院を管理病院として8医療機関と連携している。	本病院のホームページにおいて、がん地域連携バスの概要を説明している。脳卒中地域連携バスは、定期的に会議を開催して連携の促進、連携と連携を行っている。	264名 大牟田医師会看護専門学校、帝京大学、杉森高等学校、九州看護福祉大学、久留米大学

取組み事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信	退院調整部門	③地域連携を促進するための取り組み	④その他		
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等 情報発信の方法・内容等の概要	ICT(情報通信技術)を用いた病診連携等 とびうめネットへの登録ととびうめネットの登録を行なっている。 とびうめネット: 飯塚病院登録患者数 4,865人 その他 転院や在宅医療に関する相談を効率化するため、「AIに代わるオプティメクスシステム」に「こまめな転院相談」を導入している。地域内の20の医療機関との間で運用されており、2023年度は1,947件の相談に対応した。	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルバスの種類・内容 地域連携クリティカルバスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況		
	26	飯塚病院 (H17.4.1)	一般878精神 70	日本能率協会 審査登録センター (ISO9001) 2025年3月11日更新(有効期限 9001:2028年4月9日)	・情報発信の方法、内容等の概要 地域医療支援病院報告会を年に1回開催し、実績報告をおこなっている。また、ホームページや広報誌を活用し、院外の関係者向けに、当院の診療実績や研修開催情報を周知している。また、研修開催案内は各医療機関へ開催案内等を訪問やFAX、郵送等で情報発信している。 ・ICT(情報通信技術)を用いた病診連携等 オプティメクスシステムである「こまめなチャット」を用いている。このチャットシステムは、筑豊心不全の会の参加医療機関間で、心不全患者の情報共有や治療方針の相談を円滑に行うために運用されている。	・退院調整部門の概要 患者さんご自身が安心して退院後の生活を送れるよう、切れ目のない支援を提供している。入院時から転院や在宅復帰まで、多職種と連携しながら、様々な調整やご相談に対応している。 1. 医療 社会福祉士(精神保健福祉士)と退院支援看護師が、各病棟に担当として専任している。効率的かつ確実な支援を行うため、3つのチームに分かれて業務にあたっている。 2. 業務内容 病室巡回・モニタリング、入院予約時、または入院3日以内に、患者様ご家族の抱える生活上の困りごとを早期に把握している。 多職種連携: 各病棟のカンファレンスに定期的に参加し、医師や看護師をはじめとする関係職種と密に情報を共有している。 退院調整: 介護支援専門員(ケアマネジャー)や在宅医と連携し、退院前カンファレンスの調整を行うことで、退院後の生活環境を円滑に整えている。 地域連携活動: 飯塚医師会が主催する地域連携の会へ積極的に参加し、地域の医療・介護関係機関との連携強化に努めている。	・地域医師会との連携のもとに策定した地域連携クリティカルバスの種類・内容 大塚幸徳総合バスと脳卒中バスの普及を目的に、地域連携バス研究会を実施し、関係施設との連携を深めている。 ・地域医師会および関係医療機関とともに、「がん地域連携クリティカルバス」を策定している。がん診療連携拠点病院である当院及び九州がんセンターを基幹病院として、その他の医療機関とも連携し、地域全体のがん医療の均てん化(標準化と質の向上)を図っている。	・退入看護学校名 福岡県立大学、西南女学院大学、日本赤十字九州国際看護大学、近畿大学附属福岡高等学校 飯塚医師会看護高等専修学校、学校法人博多学園博多高等学校、九州医療専門学校 藤生看護大学校(看護科・看護通信課程) ・受入人数・受入期間 836名 (令和6年4月～令和7年3月)	
	27	飯塚市立病院 (R5.4.1)	一般250	ISO9001 ・2023年3月15日初回認証 ・2025年3月6日維持審査受診し認証	本病院のホームページにおいて、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を周知し掲載している。	がん地域連携バス、脳卒中地域連携バスの運用に参加している。	関係医療機関との連携により周知している。	121名 福岡県立大学 近畿大学附属福岡高等学校 専門学校藤生看護大学校 飯塚看護高等専修学校校次准看護師	
	28	社会保険田川病院 (H26.12.2)	一般335	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目 3rd: Ver.3.0取得(2024年11月1日～)	高額医療機器の共同利用のため、地域医療ネットワークを構築している。CT、MRI、骨密度測定、超音波検査、内視鏡検査科検査レポート互換性に画像配信を行っている。また、福岡県と福岡県医師会が構築した地域医療ネットワークを田川医療圏へ連携し導入済み。登録かかりつけ医から急患で当院へ紹介となった場合、緊急時紹介医療機関としてとびうめネット上の患者情報を共有し、当患者の情報があれば診療に活用している。	①看護師と病棟担当ソーシャルワーカーにて入院当初から退院に向けた支援を行い、退院前の不安の解消に努めている。地域医療機関、介護施設、在宅ケアと連携し患者と家族の抱える生活上の困りごとを早期に見察した最適な療養生活を行うよう運用している。 平成29年2月に地域医療支援センターを開院。地域連携推進室、医療相談室、病室管理室、入院受付、患者相談等の各部門を統合して運営している。入院から退院・在宅まで一貫した運用ができ、患者さんご満足な医療連携を推進することを目的としている。	・地域共通のクリティカルバスではないが、地域医療機関並びに医師会等の意見を聞き共有できるクリティカルバスを策定し運用している。 ①大塚幸徳総合病院地域連携クリティカルバス ②脳卒中地域連携クリティカルバス ・地域がん診療連携拠点病院として福岡県がん診療連携協議会、福岡県医師会と共同で福岡県統一の地域連携クリティカルバスを策定し運用している。 ①がんの地域連携クリティカルバス(胃がん(ステージ1・ステージII/III)、大腸がん(ステージ1・ステージII/III)、肺がん、乳がん、肝がん、前立腺がん)の連携(共同)での説明会等を行っている。	181名 近畿大学付属福岡高等学校、福岡県立大学、九州医療専門学校、福岡県立大学、尾尾看護専門学校、小賀国際看護学院	
	29	小倉記念病院 (H17.4.1)	一般856	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目 3rd: Ver.3.0取得(令和5年度2月)	当院で行っている最新治療の情報発信や各疾患の啓発活動内容 <2024年度実績>市民公開講座(10回開催:1,282人)、出張講演(49回開催:1,897人)、ホームページ(年間総ユーザー数351,434人)、LINE(17回配信:57,367人)、Facebook(90回配信:31,174)人、Instagram(80回配信:25,919)人、YouTube(13本配信:14,479人)、広報誌「HAMD」(年間4回医療連携機関配送:2,000部/回)、循環器内科たより「つなぐ」(6回)、医療連携機関配送:2,200部/回)、医療連携機関向け連絡会(年1回開催:参加者371名)、医療連携機関への挨拶回り(300回)、小倉循環器内科セミナー(年8回開催:291人)、診療科別オンラインセミナー(年3回開催:91人)、循環器内科医向け倉ラフプレゼンテーション(2024/5/11～5/12EBS開催)による情報発信を行っている。	とびうめネットに登録している。	北九州市医師会や関連大学、地域の医療機関で運用している下記地域連携バスを利用し、地域における継続的、包括的な患者管理を行っている。 ◆北九州版卒中地域連携バス、大塚幸徳北部骨折地域連携バス ◆北九州RVO地域医療連携シート、北九州AMD地域医療連携シート	医師会を通じての運用説明会や、協議会参加。シートの見直し提案。	531名 北九州小倉看護専門学校、西南女学院大学、日本赤十字九州国際看護大学
	30	福岡記念八幡病院 (H17.4.1)	一般453	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目 3rd: Ver.2.0取得(2023年2月) ① 緩和ケア病院2 3rd: Ver.2.0取得(2023年2月) ② 緩和ケア病院2 3rd: Ver.2.0取得(2023年2月)	① ホームページ、フェイスブック、YouTubeチャンネル、デジタルサイネージ、Instagram ② 広報誌「こにんははせい」つ病院です」4回/年発行(3,500部/回) ③ 連携先だけ登録向け毎月発行 ④ せいづつ病院健康講座の開催(市民向け) ⑤ 地域医療従事者研修会・連携フォーラムの開催(医療従事者対象) ⑥ 出前講座の開催(地域住民の方や企業向け) ⑦ 地域イベント「健康チェックアップ」開催(八幡中央区100円商店街・血倉山健康ウォーク)	① 地域医療連携支援システム「さくらネット」の展開を強化しており、登録医療機関との医療情報連携強化による診療の質の向上および医療資源の有効活用につなげている。登録医療機関と情報を共有することで、効率的で質の高い医療の提供に努めている。 ② 医療情報ネットワークでは、「とびうめネット」と「とびうめゆききめ」を「福岡県医師会診療情報ネットワーク」として運用している。 ③ 地域医療機関を紹介できるようリーフレットを作成し、患者様が自由に入手できるように患者サポートセンター前に設置している。また、北九州圏内の連携病院提示を行い患者に分かりやすく情報提供している。 ・cRRA(カルパ)オンライン予約システムの導入と協力医療機関への説明 ・病室管理システム(メディスナイズ)の導入し、法入内連携病院と運用している。	患者・家族が安心して療養生活を送れるように支援するための相談窓口として、医療相談室を設置している。国家資格である社会福祉士を有するソーシャルワーカーや退院調整看護師が、療養中の心理的・社会的問題の解決や課題調整、退院援助、社会復帰援助、安否・安楽援助、経済問題への相談介入、医療安全に関する相談援助、苦情相談等多岐に渡る内容に対して専門的な立場で相談に応じている。	北九州地区の病院と連携し、北九州地域連携バス(脳卒中、大塚幸徳北部骨折)を運用している。	受入人数: 467名 筑後記念八幡看護専門学校(259名) 八幡医師会看護専門学校(166名) 福岡水巻看護助産学校(26名) 西南女学院大学(16名)
	31	芦屋立立病院 (H17.4.1)	一般218	(公財) 日本医療機能評価機構による機能別別版評価項目: 3rd: Ver.2.0取得(令和5年1月12日)	・広報誌(年4回発行)やインターネット媒体を使用し、年間1万回以上読め、医師、スタッフから専門のある内容で発信している。医師紹介、治療、最新医療機器を紹介している。 ・連携ニュース(毎月)を発行(外来診療案内、医師不在、休診、研修案内等)し、地域との連携がとれるよう情報発信している。 ・業績集(毎年)発刊し、各部署の業績を公表している。	・患者サポートセンター退院調整部門は、退院調整看護師とMSWが連携し、入院前から地域関係機関との連携を密にしながら、入院早期からの支援を強化している。 ・退院調整シートを活用し退院困難な要因を入院3日以内に抽出し、入院日以内に多職種(医師、看護師、臨床心理士、作業療法士、言語聴覚士など)のカンファレンスを実施している。これにより、退院後の生活を見据えた方向性を検討し患者が安心して療養できるような支援を行っている。 ・病棟回診に併し、症状予測を立てながら、医師や多職種との連携を強化している。 ・退院前カンファレンス、退院前訪問、退院後訪問を実施して、患者さんが安心して生活ができるよう支援している。 ・地域の障害者事業所や訪問看護ステーションと研修等で交流を深め、円滑な情報共有に努めている。 ・がん患者の入院調整においては、がん相談員と協働し、患者の不安を軽減しながら、入院からスムーズな退院・転院ができるよう調整を行っている。	・北九州地域連携バス(脳卒中、大塚幸徳)を使用している。計画段階として確立し、回復期医療機関と連携を取り患者情報を共有し、医療の質向上に努めている。また、連携医療機関へ訪問を行い情報共有を行なっている。 ・がん地域連携バス(胃・大腸・肺・乳がん・肝がん、前立腺がん)を使用している。当院で治療後の患者を地域の医師と共同で診療し患者さんが安心して療養ができるような環境作りを積極的におこなっている。	受入人数・受入期間 1,826名 (令和6年5月～令和7年2月) 北九州市立戸畑看護専門学校 西南女学院大学 折尾実業高等学校 九州女子短期子ども科 美空野女子高等学校 東亜大学	

取組み事項			①病院の機能に関する第三者評価	②果たしている役割に関する情報発信			退院調整部門	③地域連携を促進するための取り組み		④その他
医療圏	No.	地域医療支援病院名 (承認年月日)	病床数 (床)	評価を受けた機関名等	情報発信の方法・内容等の概要	I C T (情報通信技術)を用いた病診連携等	退院調整部門の概要	地域医師会と連携のもとに策定した地域連携クリティカルパスの種類・内容	地域連携クリティカルパスを普及させるための取り組み	地域の看護学校実習生に係る受け入れ状況
	39	北九州市立八幡病院 (H30.4.1)	一般350	公益財団法人日本医療機能評価機構「病院機能評価」(3rdG:Ver3.0)取得(令和6年4月5日)	ホームページ・FAX・診療案内・病院広報誌・医療機関訪問により、登録医や地域医療機関等に診療内容や研修会に関する情報を発信している。また、市民を対象にした病院広報誌や患者向けリーフレットにより情報を提供している。	とびうめネット(福岡県医師会診療情報ネットワーク)の活用により緊急入院患者のかかりつけ医と診療情報を共有し、効果的な診療提供を図っている。	地域医療連携室に退院調整部門を設置し、患者・家族が退院後も安心して商業生活が送れるように地域連携医や患者の相談し退院支援・調整を実施している。	○脳卒中地域連携バス(北九州標準モデル)7施設 21件 ○大腿骨近位部骨折地域連携バス(北九州標準モデル)8施設 85件	関連医療機関に連携クリティカルパスの概要を説明するとともに、周知を図っている。	・受入看護学校名 : 八幡医師会看護専門学校、美祇野女子高等学校、北九州市立看護専門学校、西尾学院大学、長岐記念八幡看護専門学校 ・受入人数・受入期間 785名(令和6年4月～令和7年3月)
	40	社会医療法人北九州病院 北九州総合病院	一般360	・(公財)日本医療機能評価機構認定(3rdG:Ver.2.0)令和2年3月6日	当院のホームページに研修案内等を掲載し、院外の関係者に向けて研修の開催に関する情報を発信している。 また、登録医療機関や院外関係者に向けて新任医師の紹介や診療予定、院内で行われる研修会や合同カンファレンスなどの勉強会に関する開催案内などの情報、新しく整備した設備・医療機器および新しく導入した治療法など診療機能に関する情報などについて広報誌等を用いて地域医療連携をより推進し情報提供を行っている	とびうめネット(福岡県診療情報ネットワーク)に参加し、近隣医療機関や開業医との間において必要な情報を共有し地域医療の貢献に努めている。	退院調整部門として看護師1名、医療ソーシャルワーカーを6名配置し、入院患者の退院調整および転院相談を行っている。 患者の入院3日以内に退院調整スクリーニングを実施し早期から退院のための情報収集を行っている。入院7日以内に患者・家族と面談し、退院支援計画書の作成と説明を行っている。また入院7日以内に多職種(医師・看護師・リハビリ)とカンファレンスを行い、退院に関する課題や経済的課題、社会的課題、家族的課題等の把握とその課題や問題の解決に向け退院調整を行っている。	○脳卒中地域連携バス 上記の地域連携クリティカルパスは、施設を越えた、切れ目のないサービスの提供を目的として急性期から回復期を経て維持期まで、治療を受けるすべての医療機関で共有して用いられており、患者の障害に応じた適切なサービスの提供のために各医療機関が役割を明示し、診療内容や患者・家族に前もって説明することにより、安心して治療を受けることができることを目的に整備されている。	地域連携バス協議会や地域連携ワークショップへの参加、地域の医療機関や開業医への訪問活動を通じ連携への協力を図っている。	西日本看護専門学校、北九州小倉看護専門学校、福岡県立看護大学看護学部、美祇野女子高等学校 ・受入人数(224名) ・受入期間(令和6年4月～令和7年3月)
	41	福岡新水巻病院 (R5.4.1)	一般227	平成17年より5年ごとに公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価を受審している。最新は、令和4年1月に一般病院23rdG:Ver.2.0を受審し、認定を受けている。	登録医療機関や院外関係者に向けて診療予定や研修開催に関する情報等を行っている。また医療関係者だけでなく、地域住民の方へホームページや広報誌にて新任医師の紹介、診療案内、病院行事、健康講座や研修会等の案内、登録医療機関の紹介等もしている。最近ではYouTube・LINE等を活用し、病気の事など講義形式で情報発信も行っている。	平成28年よりとびうめネット(福岡県診療情報ネットワーク)に参加し、診療所・近隣病院と必要情報を共有し地域医療に努めている。令和6年6月よりAI問診を導入。スマートフォンなどで事前問診が可能となり来院時の待ち時間短縮にも努めている。	退院調整部門看護師、MSW、退院支援看護師を配置し、入院患者の退院調整を行っている。①入院3日以内には退院支援スクリーニングに参加し、情報収集②入院7日以内に患者、家族と面談を心掛け退院支援計画書を作成、説明③入院7日以内に多職種とカンファレンスを開催し、情報共有や方向性の確認、課題の把握等迅速な退院調整(経済的、社会的、家族的な問題により退院支援が必要な方の支援、)	○脳卒中地域連携バス ○大腿骨近位部骨折地域連携バス(北九州標準モデル)	①脳卒中地域連携バス協議会②大腿骨近位部骨折地域連携バス協議会(連携医療機関の訪問・情報交換、データ保管)	受入人数: 延べ1,653名(福岡水巻看護助産学校)
直轄 (1病院)	42	新行徳病院 (H22.4.1)	一般246	公財)日本医療機能評価機構による機能別別院評価項目3rdG:Ver3.0取得(令和7年2月受審:認定証待ち)	院外関係者へ向けに研修の開催に関する情報を送付している。 広報誌(原則年3回)を地域の医療機関及び施設へ配布している。	とびうめネット	医療連携室においてソーシャルワーカーや看護師が退院先の調整を行ったり、退院後の相談を受けたりしている。	○脳卒中地域連携バス	地域の医療機関へ訪問し、連携への協力を促している。	131名 ・豊前築上医師会看護高等専修学校 ・京都医師会看護高等専修学校 ・三好野女子高等学校 ・下関看護リハビリテーション学校 ・福岡水巻看護助産学校